

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)		-	-	-
		商店街（事務局長）	販売量の動き	・富裕層による、高級ブランド婦人服や雑貨、高級化粧品品の消費は昨秋以降好調な動きが続いている。中所得者層は堅実で慎重な消費を続けており、財布のひもは固いままである。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・来店数は少なめだったが、母の日の単価が高めの商品が例年よりもよく売れた。法人向けの祝用商品の注文も多かった。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・ゴールデンウィーク前半の連休中は比較的良かったが、それ以降、少しトーンが下がってきた。全体的には前半の数字が大きかったためにプラスになっている。
		乗用車販売店（役員）	単価の動き	・安全装置が装備され単価が上がっているが販売量は確保できている。
		通信会社（技術）	販売量の動き	・当社では利益率の高いサービスの販売量が伸びている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・4月の終わりに開幕した、観光イベントの博覧会も順調に推移している。その客が商店街等に流れていると思う。老若男女、学生を含めて、来街客が増えてにぎわいが増しているように思う。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・売上高は前年対比で多少減少傾向にあるが客数は前年並みになっており、良くも悪くも難しい局面である。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・前年4月末オープン的大型ショッピングセンターの影響が一巡し、通常期の売上は前年並みまで回復した。当月は母の日の週の売出し計画を変更したため、その分の売上はマイナスだったものの、回復基調は継続している。
		百貨店（販売促進）	来客数の動き	・高額品の動きは良好であるが衣料品は苦戦している。
		百貨店（営業統括担当）	販売量の動き	・本年はゴールデンウィークや物産展での来客が例年より少ない。来客数の減少に比例し、売上も苦戦している。客数が少ない中でも、高額品、化粧品の売上は堅調に推移しているが、衣料品のマイナスが大きい。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・来店客数の伸びよりも売上の伸びのほうが上回っているが単価の上昇によるところが大きい。価格上昇の影響が出ている。
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・競合の新規出店が激しく、既存店はかなり苦戦している。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・ゴールデンウィークが終わり節約に入っていると感じる。ただし一時的なものと考えている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・販売量などから判断すると、地方は景気は余り良くないのではないかと思う。
		衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・前月に引き続き、売上高は5%程度のマイナスで推移している。客の動きは余り変わらず、単品での購入が目立っており、客単価の低下による売上減少がみられる。30～40代がターゲットの商材が特に厳しい。
		家電量販店（店員）	単価の動き	・販売量が増えても客単価が下がり気味である。
		家電量販店（副店長）	来客数の動き	・客数が前年を割っているが、購入商品の単価については前年アップで推移している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	お客様の様子	・コト消費の部門は良いが、モノの消費部門は良くない。特に衣料品が厳しい。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・客は多少増えているが、販売量は伸びない。新しく安価な宿との競争の中で、客は増えてはいるが、単価は伸びないという状況である。
	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・前半はゴールデンウィークがあり、前年とほぼ変わらない動きだった。それ以降は前年並み、若しくは若干前年より悪い状況になっているので、余り景気は上振れしていない。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・お遍路が多くないので街も暇そうである。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・4月は売上、乗車人数も良かったが、5月は夜の飲み会需要が少なかった。	
	通信会社（社員）	販売量の動き	・学割などのキャンペーン時期だったが、例年と変わらなかった。	

	通信会社（支店長）	販売量の動き	・特に、大きな変化は見られなかった。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・特に変化がなかった。	
	設計事務所（所長）	来客数の動き	・建設会社を通じての設計依頼が増えている。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・新たな流通革命に入っている。コンビニが頭打ち、ドラッグストアが僅かな伸びで、ネット流通が増えている。その中でもC to Cマーケットのような業態が急成長してきた。旧来型の商店街としてどのような対応があるか先が読めない。	
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・料飲店への納品も店売りも低迷している。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・非常に客の節約志向が進んでいる。また、低価格訴求の企業との競争が激化している。お買得感のある企画、販促を打ち出しても、その時しか来客数が上昇しないという状況になっており、景気的には良くないと思っている。	
	コンビニ（総務）	来客数の動き	・既存店の売上は前年を上回っているが、客数は前年割れし客単価でカバーしている状況である。	
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・カー用品店では、ゴールデンウィーク以降の来客数が大幅に減少している。	
	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・販売量が3か月前と比べ90%程度である。	
	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・30年2月と比べ、入場者及び売上高共に減少傾向である。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・前年の同月と比べて今年は数字が落ちている。週末やゴールデンウィーク中の天候で左右されている。	
	× 一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・外商売上、店頭売上ともに前年を割り込んでいる。外商売上は、大口の注文が減っている。	
	× コンビニ（店長）	来客数の動き	・客数は前月の動きと同じで、かなり減少している。オーバーストアの状況は変わらず。地場の造船従事者の消費低迷を感じる。	
企業 動向 関連 (四国)		*	*	*
		通信業（企画・売上管理）	受注価格や販売価格の動き	・サッカーワールドカップによる特需がある。
		農林水産業（職員）	取引先の様子	・卸売市場の動向は、天候要因もあり一部品目を除き潤沢な入荷が続いている。また、促成野菜や妻物については、数量の割に単価が上がらない状況にあり、これは宴会等の業務需要が鈍いことを示している。また、JAの決算状況は、マイナス金利の影響が大きく、事業利益は前年を下回るJAが多いなど厳しい経営環境にある。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・気候が良かったこともあり、全国的に小売店の店頭は良くなっている。今後は都心部、地方の都市部でも良くなりそうな傾向にある。
		木材木製品製造業（資材購買）	受注量や販売量の動き	・2018年1月以降は前年同月を若干下回る受注水準となっているが想定範囲内なので先々が不安に感じるほどには至っていない。
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・目立った動きはない。
		電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・当社製品の出荷について、3か月前と比べて大きな変動は見られない。したがって、収益面に関してもおおむね同程度で推移している。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ぎりぎりの受注量が續いている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・この時期は例年、公共事業の発注量がまだ少なく、手持ちの仕事をこなしている状況である。受注額、売上額共に、例年どおりで大きな変化はない。
		輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・景気に関しては良い感覚があるが、急激な燃料の高騰が気になる。
		輸送業（営業）	取引先の様子	・既存業務委託先から、労働力不足や諸経費の増加を背景とした運賃値上げや運送付帯作業に関わる料金収受の打診を受け、運賃・料金の安価な業務委託先を模索する荷主からの引き合いが以前にも増して増加している。労働力不足や原材料価格の高騰による経費増加を運送コストの削減でカバーしようとする荷主は多く、依然として運送会社側への風当たりは強い状況にあり、運賃値上げ交渉も思うようには進んでいない。

	金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先の決算書、試算表の推移から大きな変化は感じられない。
	公認会計士	取引先の様子	・今月の関与先企業の決算書、試算表等を分析すると、景気は前年比でほとんど動きがないようであり、ほとんどの業種において変化がみられない。一部、タクシー業界においては、マイナスになっている企業もあるが、旅館・ホテル等についてはプラスになっている状況なので、景気は変わらないと判断した。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年に入って前期割れの状況であった。受注量も落ちているように思う。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今現在は仕事が多く順調にしているが、案件が少なくなり、先行きには非常に不安を感じている。また、今の案件についてもファイナンスがつきにくくなっており、景気が悪いと判断する。
	x	輸送業（支店長）	それ以外 ・年度が替わり、物量的な変動はほとんどないが燃油価格の高騰が止まらない。原油価格の高騰は自社で対応できるものでなく、收受運賃が変わらないなかでのコスト上昇は経営を圧迫する。
雇用 関連 (四国)	-	-	-
	人材派遣会社（営業）	採用者数の動き	・待機児童の課題があるなか、各地域で企業内保育の運営を開始する施設も増加したことから、女性が活躍できる機会が増えている。世帯収入も上がり、やや購買意欲も刺激され、景気は良くなっている。
	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・新卒採用を行っている企業では、例年どおり内定出しの時期だが、応募者数減と応募学生の質の低下により、採用に苦戦している企業が多い。中途採用も引き続き苦戦しているところが多く、景気は変わらない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・求人広告の問合せは増えているが、広告の効果がないとよくいわれる。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・正社員求人は増加しているものの、条件の向上は停止している。
	民間職業紹介機関（所長）	採用者数の動き	・企業訪問の際に、今年度の新卒採用の人数確認をしているが、多くの企業が、前年並みと回答している。募集人数を増やしても、多分、採用できないであろうという閉塞感を感じる。特に、中小零細企業の場合は、諦め感が強い。
	職業安定所（求人開発）	それ以外	・4月の有効求人倍率は1.40倍だが、3か月前と比べて、0.22ポイント減少しているので、「やや悪くなっている」と判断した。
x	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・2018年度問題などで、企業が採用を抑えており求人が減っている。